

バリアフリーレポート

(平成28年度報告)



写真：座間味村 新造船「フェリーざまみ3」

内閣府沖縄総合事務局運輸部

1. 沖縄総合事務局運輸部企画室の年間活動報告

(1) 平成28年度「バリアフリー教室」の開催

運輸部では、開発建設部と連携し、高齢者、視覚障がい者、身体障がい者等の疑似体験や介助体験等を通じてバリアフリーについての理解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者、視覚障がい者、身体障がい者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指しています。

①こども見学デー（沖縄総合事務局主催）

- ・ノンステップバスを利用した体験教室を開催

日時：平成28年8月3日（水）10：00～16：00

場所：内閣府沖縄総合事務局

対象：来局した小学校生など（子どものみ74名）

内容：アイマスク体験、高齢者疑似体験、車いす体験及び介助体験



【体験スタート前の説明】



【車いす体験】



【アイマスク体験】



【高齢者疑似体験】

② 「なはモビリティウィーク & カーフリーデー」バリアフリー教室

・那覇市主催のイベントでノンステップバスを利用した体験教室を開催

日時：平成28年9月18日（日）13:00～16:00

場所：那覇市国際通り てんぶす前広場（体験学習）

対象：イベント参加者（39名）

内容：アイマスク体験、車いす体験、高齢者疑似体験及び介助体験

体験者の感想：「大変なのがわかった。」「このような体験をする機会を増やしてほしい。」「スロープの乗り降りが怖いので手助けできたらと思う。」等



【バス運転手席で記念撮影】



【アイマスク体験】



【車いす体験】



【バリアフリー体験の様子】

(2) 平成28年度「バリアフリー・プロモーター活動」(自治体への作成支援)の実施

現在、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえた「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(以下、「バリアフリー法」という。平成18年12月20日施行)に基づき、高齢者や障がい者等の方々が社会参加をするために重要な公共交通機関や建築物等についての移動円滑化施策が全国各地で進められているところです。

運輸部では、開発建設部と連携し、市町村によるバリアフリー法に基づく基本構想策定の取組を促進することを目的として、基本構想策定のノウハウを必要としている市町村に対して、専門家等からなるバリアフリー・プロモーターを派遣し、バリアフリー法の解説、基本構想策定までの流れ、策定メリットの紹介、補助制度の説明、他の市町村の事例紹介を実施しています。

●日 時 平成28年9月5日（火） 13：00

場 所 豊見城市役所

相手方 豊見城市役所都市計画課職員他 計5名

当 局 開発建設部2名・運輸部3名

内 容 「バリアフリー法と基本構想について」資料配付、意見交換

●日 時 平成28年10月18日（火） 13：30～14：30

場 所 那覇市役所

相手方 那覇市役所建設部都市計画課職員他 計6名

当 局 バリアフリーリーダー高嶺氏・親川氏

開発建設部2名・運輸部4名 計8名

内 容 「バリアフリー法と基本構想について」資料に沿って説明後、意見交換



【訪問先自治体における説明】

(3) 「第8回沖縄地方バリアフリー推進連絡会議」の開催

地域の一体的・総合的なバリアフリー化を進めるためには、関係者相互の協力と連携を強めることが重要となっています。本会議は地域の学識経験者、障がい者団体、NPO法人、施設設置管理者、行政等が一堂に会し、情報や意見の交換を行い、お互いの取組に理解を深め、バリアフリーの現状や課題を共有し、よりよい協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展に寄与することを目的として開催しました。

日 時 平成28年11月2日（火）15：00～17：00

場 所 沖縄総合事務局2階 共用会議室D E

主 催 沖縄総合事務局運輸部・開発建設部

概 要

1 開会

2 議 事

(1)国土交通省、沖縄総合事務局におけるバリアフリー施策について

　　沖縄総合事務局運輸部企画室 室長 小柳 美枝子 他

(2)意見交換

　　・モノレール駅におけるバリアフリー対応について

　　・その他交通分野におけるバリアフリー対応について

(3)その他

3 閉会



【沖縄地方バリアフリー推進連絡会議】

2. バリアフリー化の状況

(1) 車両等

①バス

平成28年度末の沖縄ブロックにおけるバス車両のバリアフリー化の状況は、低床バスは325両（42.4%）で、内訳は、ノンステップバスは252両（32.9%）、ワンステップバス72両（9.4%）となっています。

②モノレール

平成28年度末の沖縄ブロックにおける軌道車両のバリアフリー化の状況は、28両（13編成）（100.0%）ですべての車両でバリアフリー化されています。

③船舶

平成28年度末の沖縄ブロックにおける一般旅客定期航路船舶（5t以上）のバリアフリー化の状況は、29隻（52.7%）です。

表 車両等のバリアフリー化の状況

	総 数	適合数	適合率(%)
バ ス	767両	325両	42.4
		252両（内ノンステップ）	32.9
		72両（内ワンステップ）	9.4
モノレール	28両（13編成）	28両（13編成）	100.0
船 舶	55隻	29隻	52.7

※ バスの適合数は低床バス。



【ノンステップバス】



【バリアフリー対応フェリー】
座間味村 フェリーざまみ3 (H28.11.1就航)

(2) 旅客施設

①バスターミナル

平成28年度末の沖縄ブロックにおけるバスターミナルのバリアフリー化の状況は、段差の解消は3施設(60.0%)、視覚障害者誘導用ブロックの設置は2施設(40.0%)、身体障害者用トイレの設置は3施設(60.0%)です。

②モノレール駅

平成28年度末の沖縄ブロックにおける軌道駅のバリアフリー化の状況は、段差の解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置、身体障害者用トイレの設置とも15駅(100.0%)全てで対応済です。

③旅客船ターミナル

平成28年度末の沖縄ブロックにおける旅客船ターミナルのバリアフリー化の状況は、段差の解消は9施設(23.6%)、視覚障害者誘導用ブロックの設置は3施設(7.8%)、身体障害者用トイレの設置は14施設(36.8%)です。

表 旅客施設のバリアフリー化の状況

	総施設数	段差の解消	視覚障害者誘導 ブロック	身体障害者用 トイレ
バスターミナル	5	3 (60.0)	2 (40.0)	3 (60.0)
モノレール駅	15	15 (100.0)	15 (100.0)	15 (100.0)
旅客船ターミナル	38	9 (25.7)	3 (7.8)	14 (36.8)

※ 下段()は、適合率(%)



**内閣府
沖縄総合事務局運輸部**